

1. はじめに

1 か月ほどの長い冬季休業が明けて自分にとって最後の新学期が始まりました。今回は今学期取っている講義と冬休み中の旅行について述べたいと思います。

2. 勉学

今学期は English Language Center(ELC)のレベルも Academic に上がり、ELC と RIT の講義 2 つずつ取っています。ELC 側の講義については、始まって 2 週間と少しと大層なことはやっていないので取り扱った課題などについて述べたいと思います。

また、RIT の講義では 2 つとも歴史の分野についての講義を取りました。当初は、副専攻の説明会のようなものに参加した時に副専攻としておすすめされた心理学分野のある講義を取る予定でしたが、講義時間が ELC の必須講義と被っていたため、別の講義をとることにしました。歴史分野を選んだ理由としては、夏の旅行のことを述べたか定かではありませんが、ボストンやワシントン DC、フィラデルフィアなどを旅行した時、アメリカの歴史的な象徴物を見るにつれて、アメリカの歴史について興味をもったことが挙げられます。歴史の講義の説明を述べますが、とある事情により学期途中から受講できるようになったので、受講回数が少なくシラバスによる推測が多くなっています。

○Grad Writing & Reading

この講義では、内容としては前のレベルと同じことをやっていますが、取り扱うのがすべて論文のみとなっており、それに対する読解、パラグラフの構成について学んでいます。最初の論文は、心理学の分野にて、端的に言えば「音楽性を感じる男性は女性受けがいい」という内容でしたが、その論文の Introduction の構成について考察をしました。あまり日本では他分野の論文を読むことはなかったので意外と新鮮で、とりわけ、ギターをもっている男性とそうでない男性が若い女性から電話番号を教えてもらえるかどうか、という実験方法にはユーモアを感じました。

○Acad Language Analysis & Accuracy

この講義でも、前学期と同様なことをやっています。内容はより英語学的になり、文の構成について深く学んでいる印象があります。その中で、Simple Sentence と呼ばれるいわゆる主語と動詞 1 つずつのみの単純な文を副詞句や名詞句を用いてとにかく長い 1 文を書く課題をやりましたが、意外と難しいことが分かりました。例えばですが、自分の専攻に関することについて Simple Sentence で書けという課題にて、

In the near future, because of the shortage of young workers from a falling birth rate and an aging population, our society will need advanced robots as labor instead of human workers, for maintaining the standard of living.

このように書いたわけですが、正直、副詞節や形容詞節、名詞節を使えたらどんなに楽に表現できるかということを考えさせられた課題でした。それでも、個人的には改心の出来だったのですが、クラスメイトの中には 5、6 行書いている人もいてただただ感心するばかりでした。

○History of World War II

こちらの講義では、第二次世界大戦の事を取り扱う講義です。この講義を受けようと思った理由についてですが、アメリカ側から見る第二次世界大戦についての考え方を知りたいと思ったからです。とはいえ、個人的に World War II のメインは国際的に欧州大戦の方と勝手ながらに思っていたので、太平洋戦争のことは大してやらないのではないかと思っていたのですが、シラバスを見る限りがつつり扱っていたので安心しました。

例えば、日本関連で言えば、ミッドウェー海戦やソロモン海戦、硫黄島、沖縄侵攻、東京の空襲のことに講義をするようです。ディスカッションもあり、パールハーバー、武士道、Atomic age（核の時代？）について討論するようです。Atomic age の日本語の公式訳は分かりませんが、要するに核兵器のテストであるトリニティ、広島長崎の投下から冷戦期を経て現代に至るまでの核兵器のあり方について今後議論するのではないかと思います。当然ですが、欧州側のトピックもありホロコーストや某映画で有名なノルマンディ上陸作戦といった事柄も取り扱うようです。

○Terrorism, Intelligence & War

この講義を選んだ主な理由として、日本では馴染みの薄いテロという言葉が、自分がアメリカに在る間にも少なくともラスベガスの銃撃事件とニューヨークシティの車突撃事件とあり、テロの背景や考えについて学ぶのも一考の余地があると思ったので、受講することにしました。

こちらの講義ではレクチャーもありますが、特殊なディスカッションもあります。イラク戦争の是非というように1つの歴史的な事柄に対して2つのチームが検事と弁護のように分かれて意見を主張し合っ、他のメンバーが審査をするというような裁判形式のような討論会です。2月から本格的にディスカッションが始まるため、翌月以降に詳しい内容について述べたいと思います。

3. 旅行

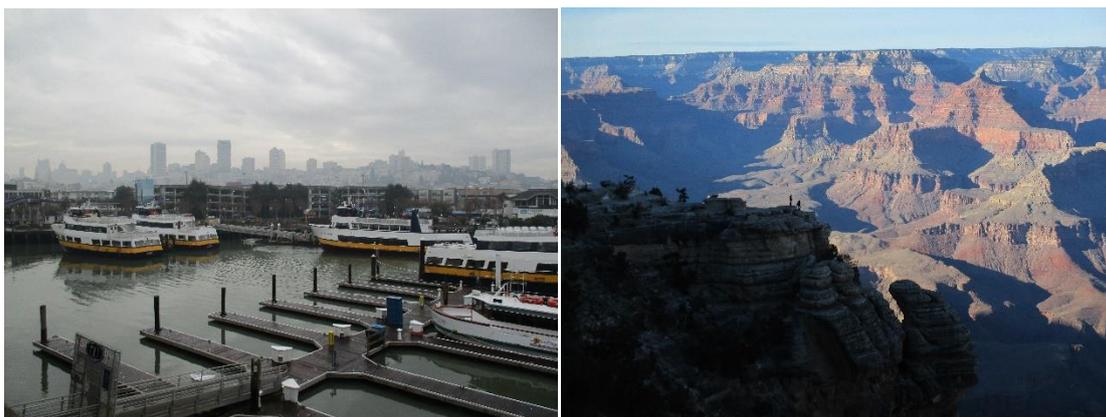


図 港側から見るサンフランシスコ ← グランドキャニオン



図 夜のラスベガス（パリもどき） ← →ハリウッド

こちらにくる留学生のほとんどが冬休みを利用して彼らの自国に帰ったので、同じ派遣留学生らと西海岸に旅行に行きました。年明け前からニューヨークシティに 10 日程ホームステイをしたのち、サンフランシスコ→ラスベガス（&グランドキャニオン）→ロサンゼルスと旅行しました。地図で見れば近いけど実際には移動が数時間かかったり、国内でも時差が 3 時間あったり（ちなみに、アメリカ国内でタイムゾーンが複数あるので、テレビで複数回年越しカウントダウンが楽しめる）とアメリカの広大さに改めて驚かされました。同じ都市内でも車で移動しなければどうしようもならない距離なので、旅行中の Uber の便利さには感服する一方でした。

少し話がそれますが、アメリカ人の友人に運転してもらいシラキュースというロチェスターの隣接都市に 1, 2 時間かけていった時に、彼はニューヨークシティまで 7 時間ぐらいでつくよ近いねと言っていたのでアメリカ人基準で考えると 1 日でつく距離ならば近いようです。よく日本で聞いたアメリカ人の性格で時間にルーズということがありますが、実際その通りで週末の RIT のシャトルバスは時間通り来ることがあまりありませんし、そもそも来ないときもあったので、それもアメリカの広大さ故かなと最近納得するようになりました。ただ、このようなアメリカの広大な土地柄、地平線に山が見えない解放感なども合わさって前から言っているようなアメリカ人の優しい性格、おらかさが出来ているのではないかと思うようになりました。

3. おわりに

旅行中に風邪を引いた結果 2 週間ぐらい鳴咽、涙がでるぐらいの咳がでるようになり眠れないし食事あまり食べられないのが続き、今でもしゃべるときに少し声に違和感を覚えるので、本当に体調管理には気を付けないといけないなと思いました。健康体で過ごし勉強面、生活面で留学生生活を満足して終わられるようにしていきたいと思います。